

ユニバーサルサービス料 インフォメーション

「ユニバーサルサービス料」の変更について

(1) 料金額 (1電話番号当たり月額)

ユニバーサルサービス料

2.2円[税込]

- ユニバーサルサービス料は、ユニバーサルサービス支援機関が定める番号単価と同額です。
- 適用する電話番号は、加入電話サービスなどの契約者回線に係る電話番号および付加サービスに係る電話番号です。

(2) 実施時期

2022年1月1日(土)

(3) その他

ユニバーサルサービス支援機関が定める番号単価については、一般社団法人電気通信事業者協会のホームページ (<https://www.tca.or.jp/universalservice/>) において公表されています。

「ユニバーサルサービスについて」ホームページ

🔗 <https://www.ntt-west.co.jp/info/support/univ/>

NTT西日本ホームページ

<https://www.ntt-west.co.jp>

携帯電話から



「ユニバーサルサービス料」について

NTT西日本では、110番や119番などの緊急通報、公衆電話、山間部や離島を含む地域における固定電話通信などのユニバーサルサービスを、いつでも、どこでも、誰もが利用可能な料金でお客さまにご利用いただけるように、通信網の維持・保守に取り組んでいます。このユニバーサルサービスを維持するために、2007年1月より各電話会社が「ユニバーサルサービス支援機関」*1を通じて費用を出し合う「ユニバーサルサービス基金制度」がスタートしました。

NTT西日本は従来から経営効率化に取り組み、人件費や経費の削減など、あらゆる費用を対象に大幅なコスト削減を実施しておりますが、ユニバーサルサービスを取り巻く環境は、

- ①携帯電話の普及拡大および光IP電話やアプリケーションサービスなどの他事業者が提供するサービスとの競争の進展
- ②従来、NTT西日本と接続事業者が応分に負担してきたコストの一部を基本料コストに付け替えるという制度変更*2

などがあり、ユニバーサルサービスの収支は2020年度で▲317億円の赤字となっております。

一方、ユニバーサルサービス基金制度により支援される額は、実際のサービス提供に要した費用を用いて算定するのではなく、長期増分費用モデル*3に基づく費用で算定しており、かつ、加入電話については、著しい高コストの地域*4に対象が限定されていることなどから、実際の赤字の一部となっています。

今般、ユニバーサルサービス支援機関が定める各電話会社の1電話番号当たりの負担額(番号単価)は、2022年1月より月額3円から2円に見直されることとなりました。これにともないまして、現在お客さまにご負担いただいている「ユニバーサルサービス料」*5についても、1電話番号当たり月額2.2円(税込)に変更させていただきます。

NTT西日本は、基金制度の下で、今後もユニバーサルサービスの維持に努めてまいります。みなさまのご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

- *1 一般社団法人電気通信事業者協会が総務大臣より指定されています。
- *2 2005年度から交換機コストの一部を段階的に基本料コストに付け替えるものです(2009年度以降は全額付け替え)。なお、このコストのうち、き線点RT(メタルケーブルに収容する電話などの通信を加入者交換機まで光ファイバーで伝送するための多重化装置)から加入者交換機間の伝送路のコストの一部については、2008年度より基本料コストから段階的に交換機コストに戻すこととされております(2011年度以降は全額付け替え)。
- *3 通信網の費用を実際の費用発生額ではなく、現時点で利用可能な最も低廉で最も効率的な設備と技術で新たに構築した場合の費用額に基づいて計算する方式です。
- *4 全国の加入数の4.9%の地域とされています。
- *5 ユニバーサルサービス料は、ユニバーサルサービス支援機関が定める番号単価と同額です。また、適用する電話番号は、加入電話サービスなどの契約者回線に係る電話番号および付加サービスに係る電話番号です。

固定電話回線数の現状

2000年度末	2021年6月末
6,178万回線	1,545万回線
競争の進展などにより ▲4,633万回線	

NTT西日本の経営効率化

2000年度	2020年度
2兆7,398億円	1兆2,575億円
コスト削減努力により 営業費用が約▲1兆4,800億円	

ユニバーサルサービス収支の現状とユニバーサルサービス基金制度による支援額

NTT西日本では継続的なコスト削減に取り組んでおりますが、NTSコスト*1の負担方法の変更などにより、2020年度におけるユニバーサルサービス収支は▲317億円の赤字となっております。一方、支援額は、長期増分費用モデルに基づく費用を用いて算定しており、かつ、加入電話については、著しい高コストの地域に対象が限定されていることなどから、ユニバーサルサービス収支の赤字の一部である、28億円が支援されることとなります。

サービス名	2020年度			基金による支援額
	営業収益	営業費用	営業利益	
加入電話・基本料	1,553億円	1,855億円	▲302億円	9億円
第一種公衆電話(市内、離島通信)	2億円	15億円	▲13億円	19億円
緊急通報	-	1億円	▲1億円	0.2億円
合計	1,555億円	1,871億円	▲317億円	28億円

支援対象の地域と費用の絞り込み

加入電話(基本料・緊急通報)の支援対象は、著しい高コストの地域に限られており、さらに加入電話・基本料の支援される費用の範囲は、著しい高コストの水準*2を上回る部分に限られています。

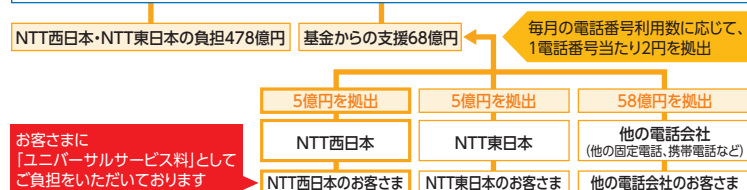
支援を受けても残りの赤字(▲289億円)はNTT西日本自身が負担

- *1 NTSコスト(Non-Traffic Sensitive Cost)とは、交換機設備のうち、通信量の増減によって変化しない装置のコストをさします。
- *2 平均コストに標準偏差の2倍を加えた額とされています。

ユニバーサルサービス料とユニバーサルサービスコストの負担について

ユニバーサルサービスの維持に必要な費用を賄うための各電話会社の1電話番号当たり負担額(番号単価)は、2022年1月から月額2円に変更されることとなりました。これにともないまして、現在お客さまにご負担いただいている「ユニバーサルサービス料」についても1電話番号当たり月額2.2円(税込)に変更させていただきます。

NTT西日本・NTT東日本のユニバーサルサービスの赤字:▲546億円(うち、NTT西日本:▲317億円)



*事業者別の拠出額は、2021年6月末の電話番号利用数に基づく試算値です。

NTT西日本は、基金制度の下で、今後もユニバーサルサービスの維持に努めてまいります。みなさまのご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



お問い合わせ・お手続きは インターネットが便利

電話やフレッツ光に関する各種お問い合わせや一部お手続きをインターネットでも承っております。**時間を気にせずいつでも**お手続きやご不明点をお調べいただけるので、ぜひご利用ください。

このように思ったことはありませんか？



申込みはいつでもできる？



先月の料金いくらだった？



クレジットカード払いの手続き方法は？



故障したときはどうしたらいい？



設定方法はどこを見ればいいのか？



**いつでも・どこでも
インターネットで解決!**



お問い合わせ・お手続きはこちらから簡単アクセス

電話・フレッツ光をご利用のお客さま

西日本 手続き 検索 <https://flets-w.com/qr/ap/>

